

ALLwatch Tips

2016年10月号
オムロンソフトウェア株式会社

バックナンバーは M2M センサネットへのログイン後に「取扱説明書」ボタンで表示する画面から参照ください。
「ALLwatch」は弊社が提供するモニタサービスの総称です。

Ior 対応絶縁監視装置 LM-100-3G の機能紹介(4)

2016年6月に発売開始しました Ior 対応絶縁監視装置「LM-100-3G」ですが、既存機種「SW150LF/LF8」では毎日「0:00」の固定であった「定期通報」データを、M2M センターの「定期通報設定」画面から、設定する時刻のデータで通信するように変更することや、一定の間隔毎に通信するように変更することが可能となりました。

本機能で設定した時刻のデータ（例えば、負荷の動いている日中のデータ）を「計測データ」画面や「定期通報通知メール」の値として確認していただくことや、定期通報エラーの判定期間を短くすることを可能としております。

それでは、以下に、本機能の設定方法とデータの確認方法を記載いたします。

■「定期通報」設定の変更方法

①定期通報時刻の変更（全絶縁監視アドバンスサービス共通）

「端末設定」から「定期通報設定」を選択いただき、ラジオボタンの「毎日」をチェックした後に、プルダウンメニューから送信希望の時刻を選択し、「送信」ボタンを押下ください。

【定期通報設定画面】



通信させたいデータの時刻を選択してください。

- ・「絶縁監視アドバンスサービス B/C」の場合
「0:00」の通信とは別に、設定した時刻のデータが端末から送信されます。
- ・「絶縁監視管理アドバンスサービス」の場合
1時間毎のデータ送信とは別に、設定した時刻のデータが端末から送信されます。

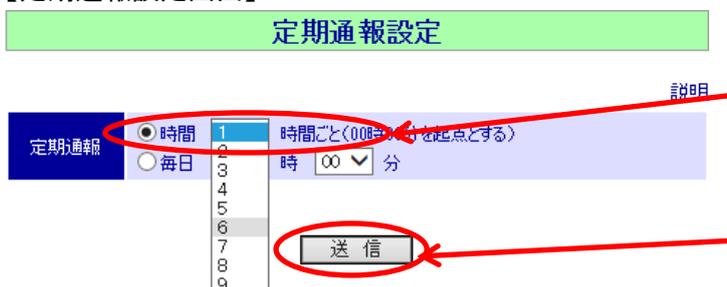
「送信ボタン」押下で端末へ設定送信します。

※本画面はお申込みいただくサービス種別によって異なります。画面例は、絶縁監視管理アドバンスサービスの画面です。

②定期通報間隔の変更（絶縁監視管理アドバンスサービスのみ）

「端末設定」から「定期通報設定」を選択いただき、ラジオボタンの「時間」をチェックした後に、プルダウンメニューから送信希望の間隔を選択し、「送信」ボタンを押下ください。

【定期通報設定画面】



「定期通報エラー」メールは、定期通報が2回以上通信されなかった際に、送信されます。定期通報エラーの送信判定をさせたい時間間隔を選択ください。

(ex. 6時間×2回=12時間以上)

「送信ボタン」押下で端末へ設定送信します。

※本画面はお申込みいただくサービス種別によって異なります。画面例は、絶縁監視管理アドバンスサービスの画面です。

尚、本設定は、現場に設置された「LM-100-3G」の設定情報を書き換える必要があります。装置の電源がOFFであったり、FOMA通信が途切れている時には変更が反映されません。電源ONまたは通信が回復した後に設定が反映されますので、電源ON確認後又はしばらく時間を置いてから設定の確認をしてください。

また、FOMA基地局が遠いなどで「基地局→監視装置」の電波強度は高いが、「監視装置→基地局」の電波強度が低いという場合があります。設定変更時の「通信状態が不安定」なために設定変更が反映されない場合もあります。

この案内に関するお問い合わせは、下記のフリーダイヤルにて承っております。

0120-053-606 (土・日・祝日を除く 9:30~17:30 (12:15~13:00を除く))

